宇治拾遺物語 ・絵仏師良秀・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段
絵仏師良秀の〔①　　〕から〔②　　〕したとき、良秀は、〔③　　〕などが家の中にいるのも構わず、逃げ出た道路に立って、燃え上がる火の手を見ていた。	火は既に〔④　　〕の家に移ったのに、良秀はただそれを眺めていた。人々が驚きあきれていると、〔⑤　　〕の火炎の描き方が分かった、絵仏師としてはこの発見こそが財産なのだと言って、不審がる人々を〔⑥　　〕った。	そのことがあって後、良秀の〔⑤　　〕を描いた絵の〔⑦　　〕が高くなった。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) さながら

(2) おほかた

(3) あさまし

(4) あはれ

(5) 年ごろ

重要文法 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 次の語句の読みを現代仮名遣いを用いてひらがなで書きなさい。

(1) おはす（二〇・4）

(2) せうとく（二〇・9）

(3) なんでふ（二〇・12）

(4) くわゑん（二〇・13）

(5) かう（二〇・13）

2 次の傍線部の動詞について、①活用の種類と②活用形を後ろの語群から適当なものをそれぞれ**一つ**選んで記号で答えなさい。

(1) 絵仏師良秀といふ|ありけり。（二〇・2）　①　②

(2) 衣着|ぬ妻子なども（二〇・4）　①　②

活用の種類　ア 四段活用　イ ラ行変格活用　ウ 上一段活用

活用形　ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形　エ 連体形　オ 已然形　カ 命令形

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「絵仏師良秀」は、隣家から出火したとき、どうしていたか説明しなさい。

2 良秀は、人々にどう言って我が家が燃えるのを見ていたか答えなさい。

3 「これも今は昔」（二〇・1）について説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

「これも今となってはもう A の B だが」の意。「これ」は、以下に語る一つの C 全体を指し示す。一般に C の語り出しに見られる慣用句である。

4 「人の書かする仏もおはしけり。」（二〇・3〜4）で、「おはしけり。」と尊敬語が用いられているのはなぜか答えなさい。

5 「あさましきこと。」（二〇・7）には、人々のどのような様子が描かれているか説明しなさい。

6 「あはれ、しつるせうとくかな。」（二〇・9）にうかがわれる良秀の心情を述べた次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

長年、納得のいく A を描けずにいたが、B を見て、A の迫真性を感得した C の気持ち。

7 「とぶらひに来たる者ども」（二〇・10〜11）の心の動きについて、空欄にあてはまる適当な語句を補って表を完成させなさい。

人々＝心配して A に来た。

良秀 ⟸ B の焼けるのを平然と眺めている。

あきれ果て、驚く C と言う。

8 「これこそ、せうとくよ。……あざ笑ひてこそ立てりけれ。」（二〇・14〜二一・2）の部分からうかがえる良秀の生き方を述べなさい。